流行船合巻 上

へ13
4297
1

伊勢新

國
2
218

尾上菊五郎作
五渡亭國貞画

流行歌川船合奏

文政八乙酉春　　前編

新鐫繪草紙　　圓壽堂記

〈2008-3347〉

角あるものハ牙おく。蹄をそなへ指をそ。淵に泳ぐるものハ木ふ登らぶ高み羽のものハ深をくる事也。人ハ生れつきたる技ハ書画もかきそく。舞踊の一曲もかつてよそ。月待日待は座敷も。役者の声色ハ好手多く。詩歌風雅の後段もそ。狂言茶番ハ所をとる。雅俗もあるべ人と呼るみやび男もつくろと一手れ風振とい心得。何ぐ〜の儒先生ぞ。一口乃江戸節ゆうる入銀元料の作者より。其任よあらぶ。名は知ぬ好りぞ。俳優の著述多うれバ今年もかりぞ種本たうけ寺嶋ろ渡場一日ぶけ仕浄書の技合。此下細工ハ雇ぞ。濁を正し誤字を補ふ作者ハ名ゑ見損の立者面ハ當世ぞ。歌川外題の文字ぞ。ぞれ雨ぞ夜の口三絃序ハ出ぶ。尾上の菊五郎でぞ。ぞとハ側ぞ普相屋ぐと声ぞ。扇舎梅幸ぞ口伝ハ傚く。

文政八乙酉孟春　　花笠文京序

狂言作者舎

住吉
新家八
大の
富八が
楼上
糸商
外屋
於亀

名弘の
圖
子
づる

同樂屋の圖
尾上松緑述
並按譜
大黒屋船頭
與兵衛
手代
惣八
金屋の
松緑
藝子
升屋の
おかめ

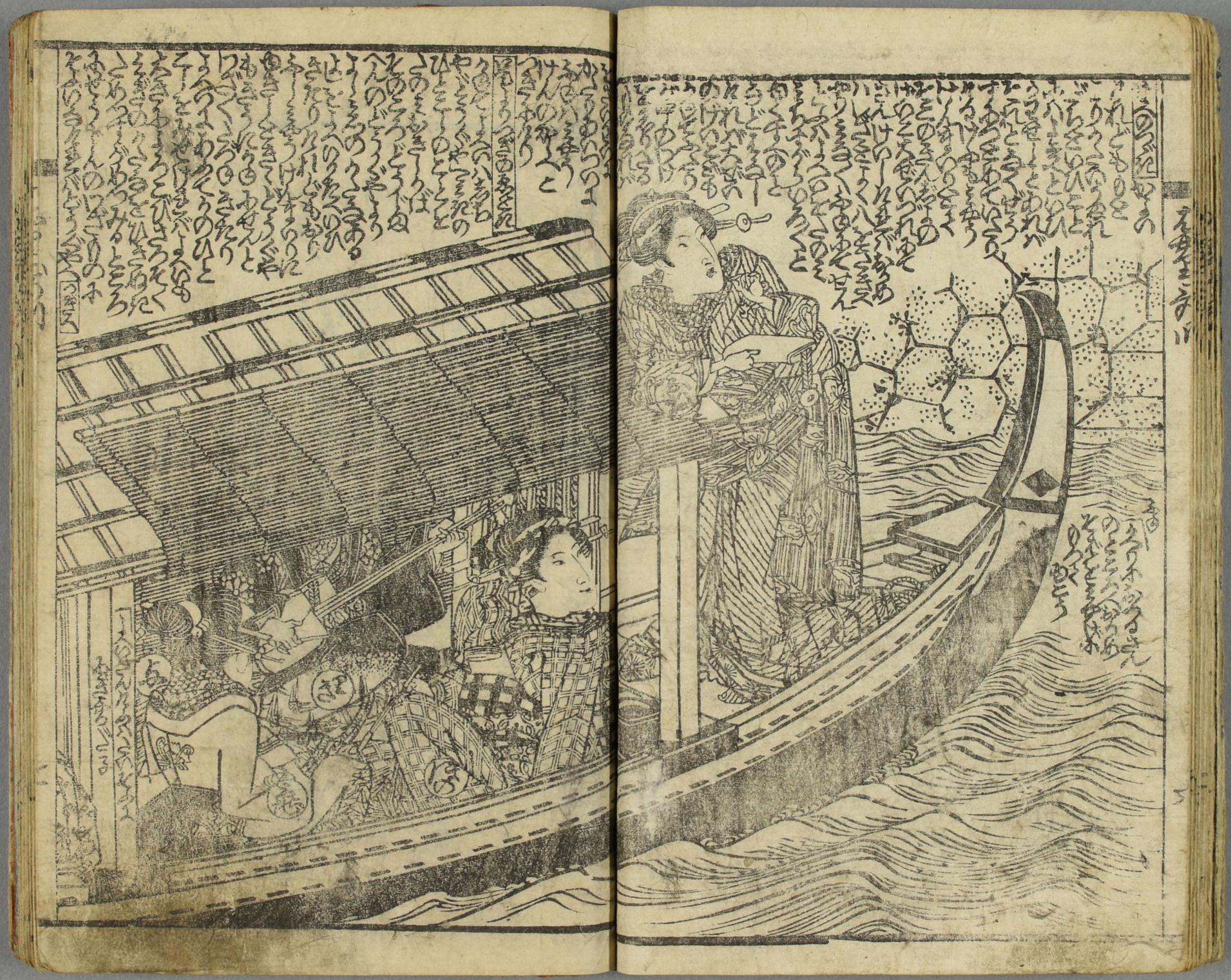
粋方合鍵の小八

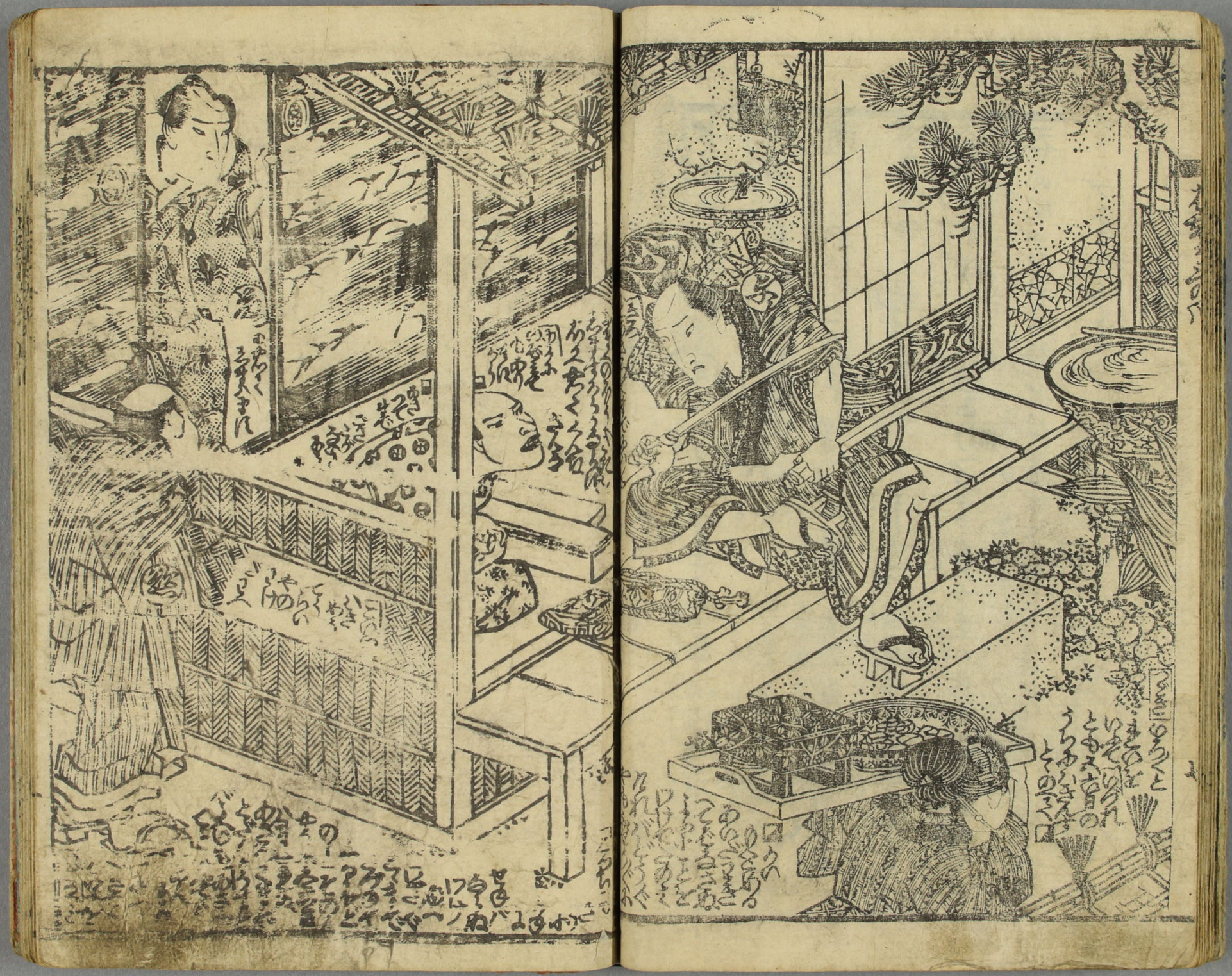
ゆやをよそれ花
杵屋正次郎按譜
たきややしたる遊

長町のお凡

坂町亀屋の二階より通を見おろす圖
待宵
松緑按譜
文京戯述

やりやま
松の庵　杵屋佐吉按譜
尾上梅幸自作





おのつゝた

貸本数品
御見料情しまして働き品位入る
但用向し孤立種類の形式品を様
方へ正風陳のもの
上野屋出店
北大門町十紀嘉地
作物登新会書
16173